



【第2回 CONNECT DAY 報告】 同友会こそ、中小企業を強くする

●参加者 200 名がつながる

第2回 CONNECT DAY が7月20日（中小企業の日）、「学んで実践、時代の変化に対応して自社を成長発展させよう」～地域を良くする中小企業を目指して～のテーマで金沢勤労者プラザにて開催され、ゲスト 54 名を含む約 200 名が参加しました。広く同友会を知ってもらい会内外の多くの経営者、経営に携わる方とつながることを趣旨として、昨年に続き二回目の実施となりました。



第一部は、石川同友会相談役の玉田善明会員（タマダ（株）代表取締役会長）が「中小企業家同友会こそがあなたの会社を強くする」のテーマで報告しました。第二部は支部ごとにゲストを囲み経営談義で懇親を深めました。以下、第一部報告要旨。

●理念作成・決算書公開、経営を透明化



玉田氏は41歳で同友会に入会。入会一年目の例会報告では経営理念や経営指針もなく、「経営とは儲ければいいということだけではない」と先輩会員から指摘を受けました。そのとき、中学校時代に遭遇した経営者側（父親）と労働者の対立やメーデーのことを思い出し、「労使見解」という言葉を知りました。

43歳で社長に就任し、経営理念を作成しました。それまでは、上から目線で人を雇ってやっているという意識でしたが、決算書を社員に公表するなど経営を透明化し、労使見解の考え方を腹に落とし込んで成長してきました。その後、タンクメーカーとして全国展開しましたが、石油業界の自由化をきっかけに給油所が減少するなど、業界の先行きが不透明になりました。防火水槽の事業でピンチを切り抜けたが不況は続きます。債務超過に陥り、仕事のできる社員から退職していきました。それでも自分のやってきたことは自分の問題と考え、自分を守れなければ社員も守れないということに気づきました。

●長い目で人を育てて経営する

経営者として何を目的に仕事をしているのか、その理念がない限り持続はできません。挑戦することは経営者の仕事、それを実行するのが社員です。自分の信じた道で社員を信じ、社員と理念を理解し合い挑戦することが大切です。ただし自分には限界があります。だから人をつくるのが経営者の仕事なの

です。長い目で人を育て経営するのが労使見解の基本だと悟りました。

同友会を辞めてしまう人も多くいます。一つ言えるのは、継続している人は自分の仕事に誇りを持ち、コアの事業を持っているということです。コアの技術を深掘りし、コアから派生させることが大事だと確信しています。

●価値は経営者の成長にある

「天の時、地の利、人の和」という言葉があります。業界の敵を敵とみなさず仲間にする。敵は自分であり自社です。お金儲けよりも会社の存在価値を持っている会社が光るのです。何に価値を見つけるか、それは経営者の成長です。その成長の根幹となったのは同友会での学びと労使見解にありました。(寄稿：藤井 敬士 広報委員)

【8月支部例会報告】

■金沢中央支部×青年部会

8/2(水) 出村有基 会員 (株) 栄光プリント 代表取締役 IT ビジネスプラザ武蔵



八方美人の逃げまくり経営からの脱却～人と向き合う経営が地域を輝かせる～

青年部会と合同での開催となり、事業承継後、地域密着型の新規事業を本格稼働させて奮闘中の勢いのある出村会員が報告しました。

将来の進路選択から事業承継まで、ある意味『逃げ』の意思決定をしてきたと語る出村会員は、経営指針講座との関わりで衝撃を受け、社員と真剣に向き合い、事業を通して地域に恩返しをしないと決意しました。

身近な目の前の人々と真剣に向き合っているのか、ということについて考えさせられる、とても有意義な例会でした。(寄稿：北川 喜隆 広報委員)

■南加賀支部

8/18(金) 西出稔 会員 (有) 明峰電機 代表取締役 サイエンスヒルズこまつ



事業承継に向け改革を進める飽くなき挑戦

西出会員が明峰電機を創業されてから34年。創業間もなくは寝る間を惜しんで働き順調に会社を大きくするもリーマンショックやコロナ禍の時には大幅に売り上げがダウンしました。また最近では出張業務が多いことを理由に退職者が出るなど、働き方に対する問題も起こるようになりました。

頭を悩ませる日々が続く中、「救世主」と呼ぶご子息が昨年入社し、昇給や新規事業の立ち上げなどの改革を進めています。人によってはストップをかけそうなところですが西出会員は止めません。そこにはご自身の理念でもある「飽くなき挑戦」という想いがありました。承継の仕方にも経営者の理念が出るのだと感じられる例会でした。(寄稿：平島 寛之 南加賀支部グループ長)

■金沢城南支部

8/22(火) 高田敏勝 会員 高田舗装(株) 代表取締役 金沢未来のまち創造館

日本でいちばん大切にしたい会社への道のり

たくさんの本を読み、たくさんの会社訪問をすることでよい会社を目指してきた高田会員は、人の勸



めで長年掃除を行い素直な人間に成長します。人は目標がないと成長しないことを学び、社内目標を掲げ『やればできる・必ずやるぞ』と強い意志で挑むも、反発する社員が8割、協力的な社員が2割と、しばらくはうまくいきませんでした。しかし、社員の協力なくしてはよい会社はできないので「皆でよい会社にしてみませんか」と問いかけ続けることで、毎朝行っていた会社周辺の掃除も少しずつ協力者が増えていきました。「目標に向かって何度も心が折れそうになった」とも話し、あきらめず『絶対やるぞ!』という強い気持ちを持続させることで社内がワンチームに近づけたそうです。

反発する人も決して責めず、1つの意見として理解してもらうことで、社員を大切に思う気持ちが皆に伝わったのだと思います。高田会員は語りかけるようなやさしい話し方でしたが、その情熱や考え方はとても強く心に残りました。(寄稿：鹿野 浩司 広報委員)

【7月・8月委員会活動報告】

■女性部会

7/12 企業訪問例会 成田由里 会員 (株) ウーマンスタイル 代表取締役



家事代行マッチングサービスの起業経緯と現状と課題

女性の「働く」の為に、自らの体験から生み出された、働ける仕組みを作りたいという夢を描いて企業した成田会員の会社を訪問し報告を聞きました。家事代行マッチングサービスを開始し、社会問題解決を目指す女性経営者としての視点から、家事育児に追われながら働く女性社員や、家事に悩む男性社員など、幅広い家事両立の課題を考えサポートするこのサービスの必要性を聞いて、出席者皆で話し合いました。また、発酵食大学も運営している成田会員より、暑い夏を乗り切れるよう甘酒を作ってもらい、美味しくいただきました。

(寄稿：宮本 富士代 女性部会長)

8/8 企業訪問例会 吉田由記子 会員 (株) スガイ書店 専務取締役/吉田一平 氏 (長男) 店長
緊急事態におけるトップの決断と行動

スガイ書店は、創業103年を迎え、87歳の現役社長(吉田会員の母)を筆頭に地域で頑張っている老舗書店です。

吉田会員の長男が入社してから新たな取り組みを始めています。100周年で感謝祭をするため、社員一丸で計画を練り、飲食やゲームなどを企画し、当日はたくさんのお客様で賑わいました。その年の売上はなんと3倍になりました。感謝祭も継続し、3年目は約1,000人が訪れました。



また、一平氏はスタッフにマーケティング勉強会を実施しており、例会当日はスタッフ2名もPOPの作成や商品PRの工夫など、楽しんで取り組んでいることを紹介してくれました。

その後、吉田会員が7月の河北地区の豪雨災害のことを報告しました。報告では「店内が泥水に浸かったが、事前に教科書等段ボールを高いところへ移動し、本は1冊も濡れることなく被害は最小限に抑えられた。会員の島屋建設(株)がボランティアで津幡の小学校、保育園の泥をよけてくれたり、津幡高校の野球部に手伝ってもらったりと改めてボランティアの大切さも分かり貴重な体験となった」と話しま

した。参加者一同、「万が一は誰にでも起こりうる」と口を揃え、同友会の絆にも感心していました。
(寄稿：中村 融香 広報委員)

■ 経営労働委員会

7/15-16 経営指針成文化講座 理念編 ウェルネスハウス SARAI

経営理念の大前提は労使関係が重要



第16期経営指針成文化講座、第一講(合宿)理念編が7/15(土)16(日)にて開催されました。12名と近年は安定した受講生となり、経営指針講座のあり方が周知されてきたと感じています。

理念編初日は例年どおり夜通しで理念作成に向けて、真剣に会社・社員に対して向き合った取り組みが出来ました。2日目は丸山博先生((有)第一コンサルティング・オブ・ビジネス)が講義をして「経営指針成文化と実践の手引書」から分かりやすく説明しました。経営理念の大前提として、労使関係が大変重要であり、再認識が必要であるという言葉が印象的でした。共学者も大変学びの多い講座であり、自社に持ち帰り実践していけることと思います。

(寄稿：館 喜洋 広報委員)

8/19-20 経営指針成文化講座ビジョン編 ホテルウェルネス能登路

未来を描くワクワクするビジョンを発表

第16期経営指針成文化講座ビジョン合宿(第二講)は12名の受講生と共学者を合わせ30名を超える参加となりました。

講座の中では第1講で学び考えた各社の「経営理念」に基づき、ドリームマップ(会社・地域・社員・自身の10年ビジョンを写真やイラストで表したもの)を作成し、会社の10年ビジョンを考え発表しました。ビジョンを考えるにあたり、共学者と対話を持ちながら、「それらは経営理念に沿っているか?自身も社員さんもワクワクする未来を描けているのか?」と自身の想いや会社の歴史や強み、社員や地域の幸せについて深く考えるきっかけとなりました。発表の中では、受講生は悩みながらも先を見据えたビジョンを語りました。

最後に桐澤経営労働委員長は「たくさんの未来を描くワクワクするビジョンを聞くことが出来て嬉しい。今日作ったビジョンをそのままにすることなく、社員やパートナー企業にも共有してください。そうすることで自分だけではなく会社のビジョンとして育てていきましょう」と語りました。

次回は9月23日(土)~24日(日)にウェルネスハウス SARAIにて第3講の方針合宿が開催予定です。
(寄稿：出村 有基 広報委員)



■ 障害者問題委員会

7/18(火) 企業訪問勉強会 前多美保 会員 前田製菓(株) 代表取締役



一人一人と向き合い信頼関係を築く

前田製菓株式会社にて企業訪問し、障害者雇用の報告と参加者によるディスカッションを行いました。

同社は10年以上前から障害者雇用を始め、現在は身体障害者1名、知

的障害者1名、精神障害者2名の4名を雇用しています。前多会員自身が雇用について基本的な事から勉強し、人材の生かし方やトラブル対応まで雇用後もお互いに相談し一人一人と向き合い信頼関係を築いています。

相手への理解を重んじる姿勢で時間をかけてチームで取り組むことで、長く働いてもらえる上に社員も自分の障害をより深く理解し、重要な役割もこなせる人材に成長しているのは驚きで希望も感じました。(寄稿：升田 泰規 障害者問題委員/高見 東次郎 障害者問題委員)

■共同求人委員会

8/9(水) 渋谷英樹 氏(有)hs style 代表取締役(富山同友会共同求人委員長)

採用セミナー「刺さる求人票の書き方」 金沢未来のまち創造館

「若い人を採用できないと思っている方は、まずはZ世代の特徴である『自分への投資・いいねを求める・タイパ重視・強力な上下関係を好まない』といった特徴を踏まえ、共感採用に取り組むことが重要です。採用に結び付かないのは単に世の中に対しての自社の認知度が無いだけ。採用活動は日本最大級の求人サイト『ハローワーク』を徹底活用しよう!」と話しました。更にYouTubeを最大限に活かすことで、採用ゼロだった会社が、1ヶ月に5件、10件...と問い合わせがきた事例を紹介しました。(寄稿：萩野 充弘 共同求人委員長)



■青年部会

8/26(土) 北陸三県合同例会 石橋隆太郎 会員 (有)三吉商店 代表取締役

スローガンは【勇往邁新～友と共に創る新時代3県～】



一度しかない人生、生きた証を作ろう!

第15回となる北陸青年経営者3県合同例会を富山県で開催し、120名以上が参加しました。石橋会員が報告し「一度しかない人生、生きた証を作りましょう!」と力強く語りました。

経営指針を学び実践する中で多くの壁にぶつかりながらも諦めずに前へ進み続けている姿からは、大きな勇気もらえる例会となりました。人生の限りある

時間を経営者として、そして人としてどう使っていくかを改めて考えるきっかけとなると同時に、たくさんの方の県外の仲間とも出会うことができました。そして、来年の第16回は石川県が開催予定地です。今年得た学びを来年に活かし、より進化できるように青年部会一同励みます!

(寄稿：木下 恒喜 青年部会三県合同例会担当委員長)

同友会3つの目的>>>よい会社をめざす よい経営者になろう よい経営環境をめざす

石川県中小企業家同友会

〒920-0059 金沢市示野町南 52 tel.076-255-2323 fax.076-268-5656